

79巻3号

2024年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

801号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



M4

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正本

大きく遅れた梅雨入り、それゆえの大雨が心配です。過去何年間の平均といった指標は、近年の気象には当てはまらないような気がします。

次号会報では間に合わないため、紫金山-アトラス彗星 (C/2023A3) について概要を書いておきます。この彗星は、久しぶりに明るく見えるかもしれないと予想されています。2023年1月に中国の紫金山天文台で発見され、その後2月に南アフリカにある地球衝突小惑星の発見を目的とした自動観測プロジェクトの ATLAS 望遠鏡で検出され、両方の観測所の名前から紫金山-アトラス彗星と名づけられました。この彗星が注目されているのは、肉眼でもとても明るく見える可能性が高いからです。今はまだ9~10等級ですが、9月になると3~4等級となり南半球の明け方の空に現れ始めます。9月27日から10月2日にかけて、北半球では明け方に現れ、10月になると夕方の空で比較的地平線の高い位置に見え北半球で観測に適してきます。10月12日に地球へ最接近し、0~1等級と最も明るく見えるようになり、それ以降は暗くなっていくと予想されています。今後様々なメディアで詳細が伝えられてくると思います。予想通りに明るく見ることができれば、私にとっては1997年のヘール・ボップ彗星以来となります。

しかし、彗星がどれだけ明るく見えるようになるか予想はたいへん難しく、記憶に新しいところでは、2013年のアイソン彗星は明るい大彗星になると期待されていましたが、太陽に最接近した際に消滅してしまいました。私はその代わり(?)に、同時期に4等級まで明るくなったラブジョイ彗星 (C/2013R1) を追いかけて撮影していた思い出があります。

さらに遡ると、1974年に地球に接近したコホーテク彗星は、20世紀最大の彗星とマスコミが大騒ぎしましたが、実際には3等級にとどまり世間をがっかりさせました。しかし尾の長い美しい彗星でした。それからは過度な期待を抱かせるような天文現象の報道は減ったように思いますが、逆に1976年のウエスト彗星はあまり期待されていませんでしたが、太陽に近づいた際には白昼でも見え、その後尾が大きく広がった印象的な姿をみせて、20世紀で一番美しい彗星とさえ言われました。

果たして、今回の紫金山-アトラス彗星はどうなるかまだまだ判りませんが、過度な期待はせず、しかし最新情報の入手はもちろん、機材や撮影場所などの準備は入念にしておこうと思います。

もう一つ、再帰新星であるかんむり座 T が今年2月から9月の間で新星爆発を起こすそうだというニュース。かんむり座 T は3,000光年ほどの距離にある白色矮星と赤色巨星の連星で、約80年の周期で新星爆発を起こす再帰新星として知られ、これまで1866年と1946年の2回の爆発が確認されています。

1946年の際は、爆発直前の光度は10.4等ほどだったのが、爆発から1日後には6等に、2日後には3等になりました。そして極大等級を過ぎるとすぐに減光が始まり、2日で1等というスピードでどんどん減光していきました。つまり、かんむり座Tは増光の情報があれば直ぐに観測しないと見逃してしまいます。さらに2等級で輝く極大期は1~2日程度しかないと思われます。いくつか知られている再帰新星のなかで2等まで明るくなるのはかんむり座Tしかありません。かんむり座という見やすい場所でもあり、80年に一度のこの現象に巡り合えたチャンスを楽しみたいです。

では、各月の天文現象の紹介です。

まず7月、6月4日に外合となった金星が夕空・西北西に低く見えてきます。7日にはその金星と月齢1.5の細い月が上下に並び、さらに月の左側には水星も見えています。その水星は22日に東方最大離角となります。また上旬から中旬にかけて、明け方の空でおうし座のヒヤデス星団・アルデバランの近くを木星が通過していきます。25日6時30分（東京・潜入の始まり）に土星が月に隠される土星食があります。高めの倍率の望遠鏡で見ると、環~本体と徐々に月に隠れていく様子は見ていて楽しいものです。20日には、ミラ型脈動変光星のはくちょう座 χ （3.3等~14.2等・周期409日）が極大になります。

8月10日・旧暦の七夕の宵におとめ座のスピカ（1.0等）の食があります。潜入は20時24分、出現は20時51分（東京）です。

12日23時にペルセウス座流星群が極大になります。月は翌13日に上弦ですから夜半前に沈みますので極大当日の観測条件は良好です。空の暗い条件の良い場所であれば1時間当たり60個以上の流星を見ることができるとも思われます。環境の良いところまで遠出ができない場合は、少しでも様々な照明の影響が少ない場所を選んで見ましよう。2021年に突発的な出現が観測されましたが、その活動は今年は13日11時ごろに相当します。日本では昼間になりますが、極大の12日深夜に加えて13日から14日にかけての活動もどうなるか注目です。

ペルセウス座流星群に続くはくちょう座 κ 流星群は、今年は17日の極大が満月前の月明かりに邪魔されてしまいます。

9月17日は中秋の名月、翌18日が満月です。近年の猛暑続き、9月といってもまだまだ夏の暑さが続くと思われます。私が子供のころの十五夜様は、夜になると涼風が立ち半袖では肌寒かった記憶があります。

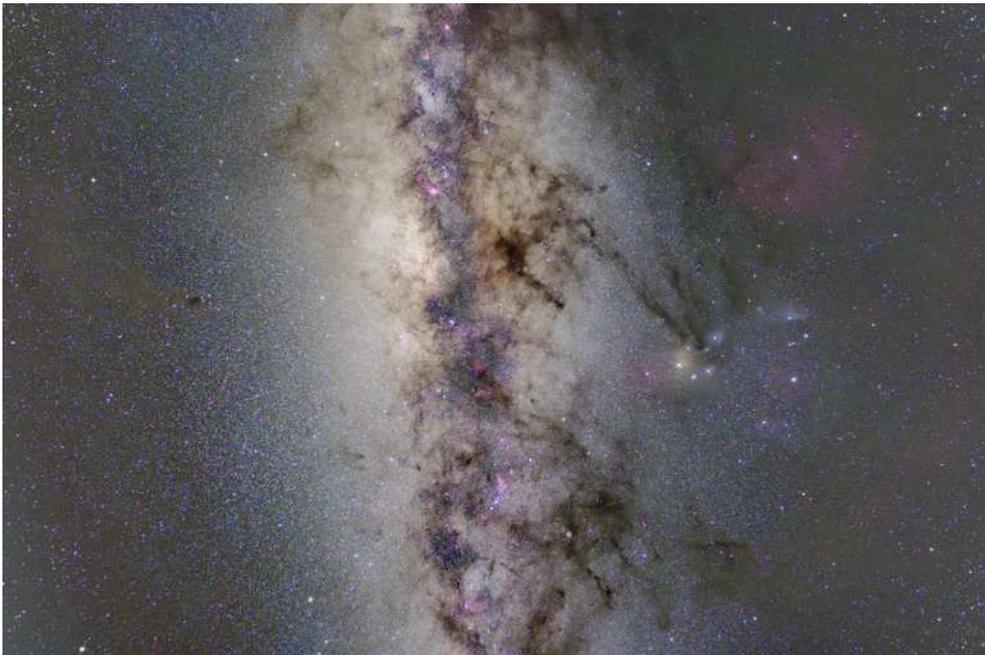
9月9日は土星が衝、21日には海王星が衝となります。翌22日は秋分の日、そして28日に紫金山-アトラス彗星が近日点を通過します。

オーストラリア・ショックと言ってもいいでしょう。オーストラリアから帰って来てから日本での撮影に気合が入りません。いつも撮影に出かける入笠山でもオーストラリアほどの空の抜け・透明度、暗さ、シーイングが足元にも及びません。また天候の安定も山の上では期待できません。ということで、今年も9月28日からチラゴーより更に空の抜けが良いと言われるジョージタウンへ行く予定です。そのため前号で予定とした画像処理ソフトは購入が見送りとなり、今号予定していた内容は先送りとさせていただきます。

表紙と本頁の写真はチラゴーで撮影したものです。この程度の短時間でここまで天体の淡い部分が写っています。下写真は表紙視野の上方の部分に大きく広がる赤H α の領域が良く見えます。入笠山では撮影できていません。

表紙写真は前号で紹介した背景フラットソフトGraXpertを使用しています。このソフトでも複雑に面積がある天体が写っている場合、フラット補正が上手くいかない場合もあります。今回は上手く補正できました、自動処理です。

【本頁写真】 銀河中心付近 2023年7月14日 撮影地：オーストラリア、チラゴー
Nikon D810A f=28mm F3.2 ISO4000 60秒×20 色温度3500K GraXpert処理有



【表紙写真】 アンタレスとM4付近 2023年7月17日 撮影地：オーストラリア、チラゴー FSQ-85EDP+フラッター f=455mm F5.4 Nikon D810A ISO6400 60秒×37 色温度4500K 素子30X20mm範囲保存 全天で最もカラフルと言われる場所です。赤、青に加えて分子雲がアンタレスの光によって黄色に見えています。

日月星の伝承を訪ねて (80)

横山好廣

津久井の月待塔 ③

前回の続きで、城山ダム建設のために移転した二十三夜塔(2)を報告する。右の地図の小網付近に位置する。

水没地区 →

『津久井町ダム史』
P. 97 から転載



●二十三夜塔(2)

調査年月日 2021. 10. 28、2024. 5. 19

調査地 相模原市緑区太井 506-3

小網諏訪神社境内

旧所在地 同 市緑区太井 555

大蔵寺入口付近

名称 二十三夜塔

形式 自然板石碑・文字塔

法量 塔身 88×57×13(地表部)

台石 埋込

銘文 廿三夜

明治十三年十□月日(1880)

梶野□□

小野澤金治郎



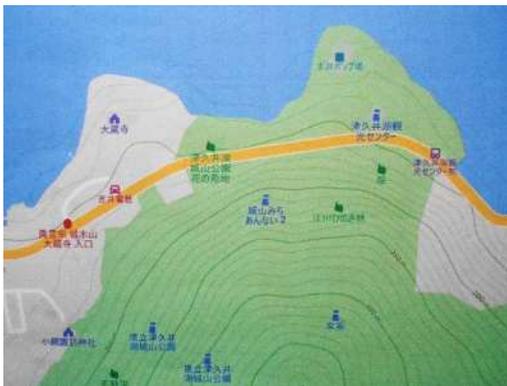
二十三夜塔(2)

- * 新・旧の所在地は共に水没地区地図中の小網に含まれる。
- * 二人の施主の梶野・小野沢姓を住宅地図で多数確認することが出来る。両家はこの辺りで中心的な存在であったのではと推察する。
- * 本碑が造立された明治十三年頃、津久井では自由民権運動などが盛んな時期で、明治十七年には困民党事件も起きている。このような時代背景を考えたとき、梶野□□なる人物には関心を抱く。しかし、□□が読めないのので、これ以上の考察が出来ない(参考・前川清治著『津久井歴史ウオーク』)。

さて、『津久井町史』文化遺産編には、「諏訪神社は太井の中の北根小屋組にあったが、城山ダム建設のための道路建設により、現在地に移転し、第六天社も移転している。」とある。また、『津久井町史』資料編 近世1には「元は大蔵寺入口付近にあったが、津久井湖建設のため現在地に移転」、「(第六天社は)津久井湖完成により小網久保が水没するため、諏訪神社に合祀された。」とある。つまり、二十三夜塔が祀られている諏訪神社は水没に瀕したのではなく、道路建設のために大蔵寺入口付近からさらに高所の現在地に遷座したのである。事実、大蔵寺入口付近は湖面よりもかなり高く、水没の危険性はない。

その遷座の際に、本碑を含め秋葉大権現の燈籠や道祖神塔も一緒に現在地に移転されたものとする。ただ、そのことを記した資料に出会っていないが、遷座に際して石造物も一緒に移転したと考えるのが自然なように思える。

水没することになって遷座・移転をやむなく受け入れざるを得なかった荒川八幡宮のケースと大きく異なるが、小網諏訪神社もダム建設の犠牲になった一つの事例である。一方、第六天社は集落水没の影響を受けて諏訪神社に合祀された。小さな社といえども村民の心の支えであったので、丁寧に移転・合祀の運びとなったのであろう。



大蔵寺と諏訪神社の位置関係

左上に大蔵寺、左下に諏訪神社。左方面には第六天社の社があった。上方の水色は津久井湖。右方面は城山ダムに至る。

*web Mapcarta

「津久井湖周辺散策マップ」から転載



諏訪神社から太井を望む

諏訪神社は集落の上に鎮座していることが分かる。旧所在地から直線距離にして約 200m、高度にして 20m以上の移転であった。

眺望の素晴らしい清潔感あふれる境内である。

(了)

天象

相原 榮

7月

水星: 夕方の西北西天で高度を上げる、中旬は観望好期 $-0.4 \sim +0.6$ 等 かに \rightarrow しし座

金星: 夕方の西天で徐々に高度を上げる -3.9 等 ふたご \rightarrow かに座

火星: 夜半過ぎに昇る $+1.0$ 等 おひつじ \rightarrow おうし座

木星: 明け方の東天に昇る $-2.0 \sim -2.1$ 等 おうし座

土星: 夜半前に昇る、観望好期 $+1.0 \sim +0.9$ 等 みずがめ座

6日 07h57m 新月

23h20m 小暑

7日 宵の西天低空で月と木星が並ぶ

14日 07h49m 半月(上弦)

21日 19h17m 満月

22日 16h44m 大暑

25日 未明の西天で月と土星が接近

深夜の天頂近くで月と海王星が大接近

28日 11h52m 半月(下弦)

みずがめ座 δ 流星群が極大の頃

30日 明け方の天頂近くで月・天王星・プレアデス

星団が集合

やぎ座 α 流星群が極大の頃

8月

水星: 後半に明け方の東天で高度を上げる $+1.1 \sim +1.4$ 等 しし座

金星: 夕方の西天低空で徐々に高度を上げる -3.9 等 しし \rightarrow おとめ座

火星: 夜半過ぎに昇る $+0.9 \sim +0.8$ 等 おうし座

木星: 夜半過ぎに昇る $-2.1 \sim -2.3$ 等 おうし座

土星: 一晩中楽しめる、後半は観望好期 $+0.8 \sim +0.6$ 等 みずがめ座

1~7日 「スターウィーク」星空に親しむ週間

4日 20h13m 新月

7日 09h09m 立秋

12日 23h ペルセウス座流星群が極大の頃

13日 00h19m 半月(上弦)

18日 はくちょう座 κ 流星群が極大の頃

20日 03h26m 満月

22日 23h55m 処暑

26日 18h26m 半月(下弦)

27日 明け方の天頂近くで火星がかに星雲に
大接近

9月

水星: 明けの東天、上~中旬は観望好期 $-0.3 \sim -1.5$ 等 しし \rightarrow おとめ座

金星: 夕方の西南西天低空で高度を上げる -3.9 等 おとめ座

火星: 夜半に昇る $+0.7 \sim +0.5$ 等 おうし \rightarrow ふたご座

木星: 明け方に南中 $-2.3 \sim -2.5$ 等 おうし座

土星: 絶好の観望期 $+0.6$ 等 みずがめ座

3日 10h56m 新月

5日 夕方の西天低空で月と金星が接近

7日 12h11m 白露

11日 15h06m 半月(上弦)

17日 中秋の名月

宵の東天で月と土星が大接近

18日 11h34m 満月

22日 21h44m 秋分

24日 明け方の天頂近くで月と木星が並ぶ

25日 03h50m 半月(下弦)

28日 未明の東天で月がプレアデス星団に接近